



24 林大尉戦死之図 満谷国四郎

明治三十年（一八九七）油彩・カンヴァス
一〇二・〇×一五八・八

本図は明治三十一年の明治美術会創立十周年記念展に出品され、会場へ行幸された明治天皇が本図の前で立ち止まられ、しばし御覧になって御買上となり、満谷国四郎の出世作となった作品である。日清戦争に際して平壤で戦死した林久實大尉が、死の間際に重要機密である軍用地図を奪われまいと口で引き裂いた、この当時広く知られていた場面が描かれている。『美術評論』第十四号（明治三十一年十月）において、前景のみで中景が備わっておらずパノラマ画のようだと評されたように、手前の人物のみを実在感豊かに描き、大きく強調する構図に特徴がある。また、戦場における戦死の図であるにもかかわらず、悲壮感や劇的な感興が抑えられているという指摘は、この時期の満谷の対象を冷静かつ理知的にとらえる資質を表している。なお、このとき満谷は小正太郎の不同舎に学んでおり、戦争画を好み血糊の描写に凝った小山が、本図の制作に際して林大尉の姿にも血を描き加えたという逸話がある（小山正太郎先生 不同舎旧友会、昭和九年）。画面右下に「満谷国四郎／明治卅年七月十六日」とサインと完成日が記される（満谷の名前は、当時の出品目録、雑誌記事では「國四郎」となっている）。

満谷国四郎（一八七四～一九三六）は岡山に生まれ、明治二十四年に上京し、はじめ五姓田芳柳に、ついで小山正太郎の不同舎に入門して洋画を学んだ。同三十三年、アメリカを経由して渡欧、同年のパリ万博に出品して褒状を受けた。帰国後、明治美術会を解散し、太平洋画会を結成した。文展・帝展を中心に作品を発表したが、同四十四年の再渡欧を契機に後期印象派の影響を受けた画風へと大胆な変化を示した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections